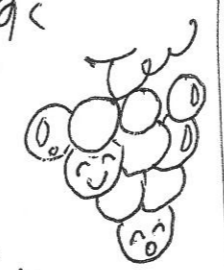


9がっくもの子の会だより

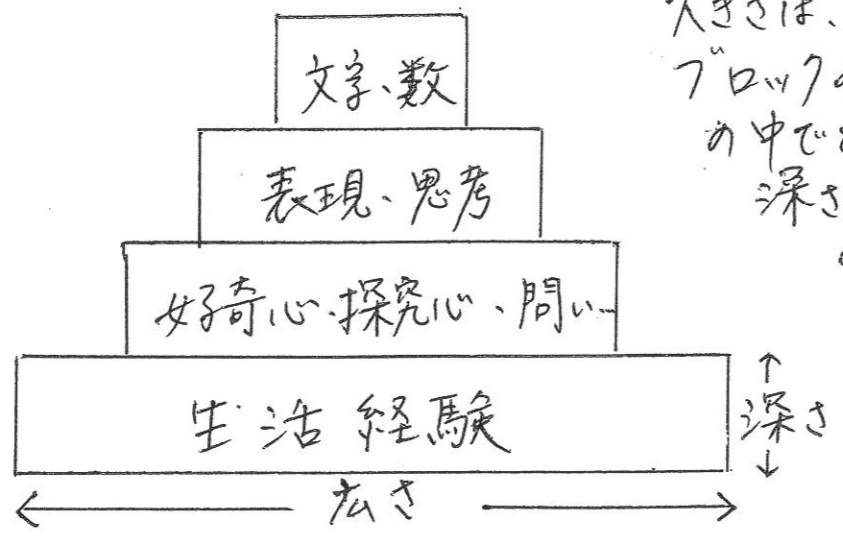
<H.27.8.21>

今年は、特に暑い暑い夏となり厳しかったですね...。
まだ残暑がつきそうですが、秋がくるのが楽しみです。
涼しくなると、外での活動もやりやすくなりますので、
外へ出かけるのが好きなお友は、待ち遠しいです。
少しは暑さもおちついてくるでしょうから、リズム遊びも動きやすくなるかな...と思います。



二だわりとかいう、子どもの感情と知性の中間の精神的な営みがきます。これは、遊びだとか探索活動だとかを豊かに体験するこころによって生まれますし、大人がヒントを与えてやるとか、子どもの好奇心や探究心を促すような働きかけをしてやることも大切です。それから、その上に、子ども自身の表現と思考というブロックが置かれます。子どもの表現は、好奇心や探究心に裏づけられたものでなければいけませんし、その表現のしかたには、その子の個性が豊かに出ているものであり、美しいという事です。この思考や表現の上によく文字とか数がうまれるのであって、ブロックの大きさからみたら、ほんの小さなものでいいわけです。私たちがしばしば、この一番上の部分だけを見て、子どもの「かしこさ」をはかるという、とりちがえをしていますが、この文字とか数の下の3つの大きなブロックの方が実は大事なのです。

～子どもの知的能力のモデル～



→ これはブロックですが、一番下に子どもの生活があります。ブロックの横の大きさは、生活経験の広さです。ブロックの縦の大きさは、その生活経験の中でどれだけ熱中したかという経験の深さだと考えてください。この一番下のブロックが大きければ大きいほど、子どもはいろいろな体験をしているのだというふうに考えられます。そのブロックの上に好奇心とか探究心とか問いとか驚きとか

<かしこさ、ってなに
汐見穂香 さん>